

○ 州立大学訪問 ～ 進路キャリア教育より ～

11月4日(火)、進路キャリア教育の学習で、州立大学訪問を行いました。州立大学の藤原真理先生が小6～中3計5名の子どもたちのために、日本語を学ぶ大学生と日本からの留学生を集めて、学校見学～交流会・質疑応答を計画し、大変有意義な時間を過ごすことができました。印象的だったのが、子どもたちが考えたブラジル人学生への質問で「学んだことをどう生かすか」の回答で、「将来のことが一番難しい」と考え込んでしまいました。彼らにとって日本語を学ぶことは、好きなことを学ぶ喜びであり、働きながら学ぶ学生もいる中、就職に結びつけることではないと言うことです。また、日本からの留学生が得たことは、「人に頼れるようになった」「主張できるようになった」であり、海外に出る魅力がここにあるのだと実感できました。この訪問で得たことは、皆さんの将来に役立ちますね。



○ ものづくりは楽しい！



左上から時計回り＝中3技家（門松づくり）、小56家庭科（ポケットティッシュカバーづくり）、中12技家（木工加工・本箱・飾り棚づくり）、小1234図工（松ぼっくりのクリスマスツリーづくり）

・竹はジョアンさんが裏山から切ってきてくれ、体育館横の松をベラさんに付けてもらう。巨大な松ぼっくりは校長がクリチバで拾う。

のこぎり・竹・松・針と糸・布地・木材・かんな・げんのう・くぎ・きり・絵の具・粘土...。材料と道具から、創作したものが形となってできあがっていくことの気持ちよさを思う存分味わうことができます。季節や文化を取り入れたものの創作も意欲が増し、貴重な経験となって生きる力が磨かれていきます。ものづくりは楽しい！

○ 「聞くこと」から喜びを味わう

2カ月に一度、全校朝会でリオ日学の教員が順番に自分の専門分野や興味のあることを題材に、子どもたちに話をします。

「聞くこと」から話の内容を理解して、自分ならこう考える、自分の生活に取り入れてみよう、など主体的に物事に向き合い、意見が言えるようになることをねらいとします。

「話を聞く喜び」を味わうことのできる子どもに育ってほしいと願います。

< 10/1 土屋先生「努力のつぼ」 >



「努力のつぼ」を知っていますか？人は何かを始める時、神様から努力のつぼをもらいます。これは目に見えなく、どれくらい大きいか、水がどれくらいたまっているか

分かりません。人は努力の水をためていき、あふれた時に満足が得られます。その時初めてつぼの大きさがわかり、自信となります。皆さんは、頑張ったけれど、結果が残念だったことはありますか。それは、その人にとって、つぼが大きかったということです。ただし、そのつぼには必ず水はたまっているのです。このつぼは、水がたまり始めて2/3を超える頃に、ポチャンと音が聞こえるそうです。そのことで努力の成果が感じられ、なんだか楽しくなるそうです。これからもしくじけそうなとき、このつぼをイメージして、努力した分だけ今でもたまっていると信じ、努力を継続することが大切です。あと3カ月どう過ごすか、勉強でも生活でも、少しずつ努力の水をためていきましょう。

< 12/1 佐藤先生「記憶のかぎ」 >



今年の流行語大賞候補が発表されました。エッホエッホ・チョコミント・ミャクミャク・女性首相の高市さんなどが候補で話題になっています。校長先生のNIEタイムで小6以上の子どもたち

は予想しましたが、なぜそれを選んだのですか？ 侑奈＝女性首相（初めての女性首相によってたかって注目された）、心実＝女性首相（女性として初めてニュースとなった）、奏凜＝女性首相（初めての女性であり、いろいろな政策を打ち出しているから）、菜南子＝ミャクミャク（最初は気持ち悪いと言われたが、結果的に有名になり、万博も成功したから）、史奈＝エッホエッホ（忙しい響きが働くことにつながっているから）。

NIEタイムのレポートを皆さんが読んで、過去を振り返ったとき、時代を表す言葉から当時を思い出すことがきっとあると思います。「記憶のかぎ」という言葉があります。その時々の「歌・景色・におい・だれかの言葉」、リオ暮らしの中で、見たり、聞いたり、感じたりしたことが、未来の自分にとって、過去を振り返ったときに、温かい思い出を届けてくれるはずです。2025年に、笑える瞬間がたくさんあったと思います。どうぞ皆さんも、歌・景色・におい・味などを大切に、思い出に包まれる時を過ごしてください。